

令和3年度 学校自己評価

(一計画段階・実施段階)

福岡県立苅田工業高等学校長 印

学校運営方針		学校運営方針(4月)		評価(3月)
学校運営方針		「チーム苅工」として教育活動を展開し、志と自立心・思いやりの心溢れ、グローバルな感覚をもって地域産業を支えるモノづくりのスペシャリストを育成する。		A
昨年の成果と課題		年度重点目標		
昨年の成果として、苅田町イルミネーション事業に代表される地域との連携に加え、ものづくりを通して培われた技術・技能を発揮し、九州大会において優勝したマイコンカーラリーや、レスリング部・写真部の全国大会出場など、生徒主体の教育活動が十分に展開できるようになった。 今年は、「チーム苅工」としての教育活動をさらに発展・充実させ、確かな学力を育成するとともに、規範意識や危機管理意識の向上による安全で安心な学校づくり、5Sの徹底、行事を通して育む豊かな心と思いやりの精神など、工業人としての資質の向上とコミュニケーション能力の育成を図る。また、「社会に開かれた教育課程」の視点に立った地域の人的・物的資源の活用など、社会教育との連携を深めることでもたらされる実体験を重視したキャリア教育の推進を行う。さらに、ものづくりや部活動、地域行事への積極的な参加によって地域との連携をより緊密なものとし、学校創立60周年に向け、地域に開かれた魅力ある学校づくりと本校のブランド化を図る。		一人一人の人権が尊重される安全・安心な学校づくりの推進と思いやりの心の醸成	○危機管理マニュアルの改善を図り、危機管理意識の向上と対応能力を高める。 ○悩みやいじめの早期発見・早期対応による安心な学校環境づくりを推進する。 ○人権・同和教育、薬物乱用防止教育および命の教育を推進する。 ○豊かな心の涵養を目指した学校行事等の充実を図る。	
		「鍛ほめ福岡メソッド」を取り入れた主体的・対話的で深い学びの推進	○好奇心と創造力を喚起するICT等を活用した学習活動の推進を図る。 ○目標に準拠した観点別評価の定着を図る。 ○「ものづくり」への興味関心を育てる工業教育を推進する。 ○朝読書と運動した授業規律の確立を図る。	
		自主自立・規範意識の向上・5S(整理・整頓・清潔・清掃・躰)の徹底	○挨拶「服装」「時間厳守」等、基本的な生活習慣の確立を図る。 ○部活動、生徒会活動等の活性化による自主・自立、母校愛と共同の精神の涵養を図る。 ○5S徹底による工業人としての資質の向上とコミュニケーション能力の育成を図る。	
		キャリア教育の推進とグローバルな感覚をもった地域に根ざした人材の育成	○資格取得推進と進路マップによる進路意識の醸成を図る。 ○インターンシップや「産業人材育成事業」を活用した体験教育の推進を図る。 ○生徒自身の特性を生かせる進路希望の実現を図る。 ○グローバルな感覚を育成するための教育活動を展開する。	
地域に開かれた魅力ある学校づくりとブランド化	○「ものづくり」を通じた地域貢献事業の推進と創造力の育成を図る。 ○地域・中学生・保護者への学校情報の積極的で効果的な発信を行う。 ○地域のボランティア活動への積極的参加を推進する。 ○地域連携を活かしたブランド化の構築を推進する。			

部所名	課名	具体的目標	具体的方策	評価(3月)			次年度の主な課題
教務	教務課	授業規律の遵守・授業改善	取り組んできた授業規律を確立させ、ICTを活用した効果的な学習指導と、評価方法の改善から見えてきた課題等をフィードバックし、授業改善に繋げるような体制を構築する。	A	A	A	○今年度周知した授業心得を全クラスで遵守する指導体制を確立する。月間目標等を提示する。 ○今年度指導を行い成果の出ている基本的な生活習慣について、再度授業の始業や終業時の挨拶等の指導を徹底し、工業人としての自覚を培う環境を整える。 ○工業の専門科目と普通教科の連携を深め、基礎学力習得に向けての興味関心をより高める指導体制を作っていく。 ○ものづくりへの興味関心を高める授業や一貫性のある実習項目等の検討や精選を行う。 ○研修で習得した内容等を多くの教員で共有できるような、報告会等を効果的に取り入れる。 ○教育センターや企業等が実施する研修等を積極的に紹介し、教員の授業力及びスキルアップを促す。 ○新学習指導要領実施に向けた評価方法を確立する。
			教員間で情報を共有できるような環境を整備し、学習指導力の向上及び評価に役立てる。	A			
		興味関心を育てる学習活動の推進	「ものづくり」への興味関心を高め、工業教育における基礎学力の重要性を理解させることで、その定着と向上を図る。	A			
			校務支援システムの効果的な活用を推進することにより、教職員が生徒に関わる時間を確保し、有意義な学習指導が行える環境を整える。	B			
	主体的・対話的で深い学びの推進	「鍛ほめ福岡メソッド」を取り入れ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習指導、授業改善が行えるよう、教員間で連携する。	A	A			
		教員相互間の研究授業、公開授業週間への参観を促し、学びの質を高めるための授業改善を推進する。	B				
教育情報課	ICT等を活用した教育活動の推進	他の分掌や科、学年と協力し、今年度から導入された校務支援システムを活用することで、一元管理されていなかったデータを有効利用する環境を整備し、society5.0社会での教育活動を有意義に実践できる体制を構築する。	A	A			
		授業や様々な教育活動及びリモート授業等でICT機器を効果的に活用できるような環境づくりを推進する。	B				
生徒指導部	生徒指導課	基本的な生活習慣の確立を図る	欠席・遅刻・早退の減少を図るため、自学自習の指導を学年と協力し徹底して行う。みだしなみ指導を継続して行い、「すぐにも面接に行ける状態」の意識づけを徹底する。	A	A	A	○定期の登下校指導(学期始め・定期考査前・定期考査中等)を継続し、自転車の登下校のマナーの向上を図る。 ○毎月の学校生活アンケートや定期的個人面談を確実にし、生徒の「心の把握」を徹底する。また、その情報を共有し、共通理解を図った生徒指導を行う。 ○関係機関と連携し、各種講演会や交通安全教室等をさらに充実させ、問題行動や交通事故等の未然防止に努める。 ○部活動の活性化を継続して行う。 ○生徒会・委員会の活性化を継続して行う。
			毎月の学校生活アンケートや定期的個人面談を確実にし、生徒の「心の把握」を徹底して行う。また、その情報収集や情報発信を行い、共通理解を図った生徒指導を行う。	A			
		関係機関と連携した生徒指導を行う	警察・自動車学校等と連携した交通安全教室を実施し、交通事故の未然防止に努める。非行防止等の規範意識育成のため、各種講演会の内容充実を図る。	A			
			関係機関・他分掌・職員間の連携を密にした指導の充実を図り、問題行動の未然防止に努める。登下校指導を強化し、交通マナーの向上を図る。また、PTAとも連携し地域のイベントでの巡回や登校指導を行う。	A			
	生徒会・委員会活動・部活動の活性化を図る	生徒会役員、各種委員会及びリーダーの育成を図り、学校行事における自主的な運営を支援する。また、ボランティア活動や挨拶運動・薬物乱用防止キャンペーンなどにも積極的に参加する。	A	B			
		学期に1回以上の部活動生集会和学期に1回の部室等点検を行い、他の生徒の模範となるよう自覚を促す。また、他分掌と連携した広報活動を積極的に行い、各部の活動状況や生徒の頑張りを地域や企業、中学校へ強力にPRする。	B				
保健課	学習環境の整備と安全管理を行う	5Sに努め、清掃活動を徹底させる。また、美化コンクール・美化点検を定期的に行い、美化意識の向上を図る。	A	A	A	○5Sに努め、清掃活動を徹底させる。 ○自然災害等の緊急時行動マニュアルを周知し、「命を守る行動」の指導を徹底する。 ○保健だよりを定期的に発行し、体調管理の指導を継続する。	
		自然災害等の緊急時行動マニュアルの徹底を図り、「命を守る行動」の指導を徹底する。また、保健だよりを定期的に発行し、感染症や感冒への早期対応の指導を継続する。	A				

令和3年度 学校自己評価

(一計画段階・実施段階)

福岡県立苅田工業高等学校長 印

学校運営方針		学校運営方針(4月)		評価(3月)
<p>学校の成果と課題</p> <p>昨年の成果として、苅田町イルミネーション事業に代表される地域との連携に加え、ものづくりを通して培われた技術・技能を発揮し、九州大会において優勝したマイコンカーラリーや、レスリング部・写真部の全国大会出場など、生徒主体の教育活動が十分に展開できるようになった。</p> <p>今年は、「チーム苅工」としての教育活動をさらに発展・充実させ、確かな学力を育成するとともに、規範意識や危機管理意識の向上による安全で安心な学校づくり、5Sの徹底、行事を通して育む豊かな心と思いやりの精神など、工業人としての資質の向上とコミュニケーション能力の育成を図る。また、「社会に開かれた教育課程」の視点に立った地域の人的・物的資源の活用など、社会教育との連携を深めることでもたらされる実体験を重視したキャリア教育の推進を行う。さらに、ものづくりや部活動、地域行事への積極的な参加によって地域との連携をより緊密なものとし、学校創立60周年に向け、地域に開かれた魅力ある学校づくりと本校のブランド化を図る。</p>		<p>「チーム苅工」として教育活動を展開し、志と自立心・思いやりの心溢れ、グローバルな感覚をもって地域産業を支えるモノづくりのスペシャリストを育成する。</p> <p>年度重点目標</p> <p>具体的方策</p>		<p>A</p>
<p>一人一人の人権が尊重される安全・安心な学校づくりの推進と思いやりの心の醸成</p>		<p>〇危機管理マニュアルの改善を図り、危機管理意識の向上と対応能力を高める。</p> <p>〇悩みやいじめの早期発見・早期対応による安心な学校環境づくりを推進する。</p> <p>〇人権・同和教育、薬物乱用防止教育および命の教育を推進する。 〇豊かな心の涵養を目指した学校行事等の充実を図る。</p>		
<p>「鍛ほめ福岡ソッド」を取り入れた主体的・対話的で深い学びの推進</p>		<p>〇好奇心と創造力を喚起するICT等を活用した学習活動の推進を図る。 〇目標に準拠した観点別評価の定着を図る。</p> <p>〇「ものづくり」への興味関心を育てる工業教育を推進する。 〇朝読書と運動した授業規律の確立を図る。</p>		
<p>自主自立・規範意識の向上・5S(整理・整頓・清潔・清掃・躰)の徹底</p>		<p>〇挨拶「服装」「時間厳守」等、基本的な生活習慣の確立を図る。 〇部活動、生徒会活動等の活性化による自主・自立、母校愛と共同の精神の涵養を図る。 〇5S徹底による工業人としての資質の向上とコミュニケーション能力の育成を図る。</p>		
<p>キャリア教育の推進とグローバルな感覚をもった地域に根ざした人材の育成</p>		<p>〇資格取得推進と進路マップによる進路意識の醸成を図る。 〇インターンシップや「産業人材育成事業」を活用した体験教育の推進を図る。</p> <p>〇生徒自身の特性を生かせる進路希望の実現を図る。 〇グローバルな感覚を育成するための教育活動を展開する。</p>		
<p>地域に開かれた魅力ある学校づくりとブランド化</p>		<p>〇「ものづくり」を通じた地域貢献事業の推進と創造力の育成を図る。 〇地域・中学生・保護者への学校情報の積極的で効果的な発信を行う。</p> <p>〇地域のボランティア活動への積極的参加を推進する。 〇地域連携を活かしたブランド化の構築を推進する。</p>		

部所名	課名	具体的目標	具体的方策	評価(3月)			次年度の主な課題
キャリア教育部	進路指導課	進路実現に向けた学力の向上	就職問題集やSPI問題集などに早期に取り組みせ、基礎学力の向上を目指す。	B	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 〇校外模試の結果から自らの実力を認識し進路実現に向け学び直し学習の徹底を学年と連携し行う。(到達度目標設定) 〇夏季休業中の補習体制を学年と綿密に計画し学力向上に取り組む。 〇基礎学力向上を図るため、朝学習のまとめテストを実施する。
			学年・普通教科と連携し、夏季休業中の補習体制を綿密かつ効率的に整え、就職試験・大学受験に備える。	A			
		キャリア意識の向上	「進路指導の手引き」・「キャリアパスポート」を活用し、自らの学習状況や進路目標を設定させ自身の成長を自己評価させる。	A			
			インターンシップ・進路ガイダンス・工場見学・応募前職場見学・大学との連携授業などを通し、進路意識の向上に繋げる。	A			
	進路希望の実現	企業・学校説明会を通して情報収集を行い、個人面接で得た生徒の進路希望を担任団と情報共有しながら、個に応じた進路指導を行い、ミスマッチのない適切な進路選択を促す。	B				
		進学・公務員希望者にはオープンキャンパスへの参加や、休日や長期休業を利用した各種講習会に積極的参加を促し、早期より受験対策を行う。また、GDや適性検査実践講習会を行う。	A				
企画・広報課	迅速な情報発信	月に1回のHPの更新を行う。早めの中学校訪問や駅等に部活動結果のポスター掲示など、多くの情報提供ができるようにする。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 〇各部活動や各学科と協力し、HPや校内掲示板の迅速な更新を行う。 〇学校案内パンフレットだけでなく、各科通信を作成し、中学生や保護者に本校をPRする。 〇出前授業や学校説明会を積極的に行い、本校の取組を中学生や保護者に説明する機会を増やす。 	
	学校行事等のスムーズな企画運営と防災意識の向上	各行事に迅速に取り組み、職員への周知徹底をはかる。1学期に実効性の高い避難訓練を実施し、防災意識を高める。	A				
研修課	学びの質を高めるための授業改革の推進	校内外の研修、研究授業、公開授業への積極的参加を促し、生徒の学びの質を高める授業改善を図る手助けとする。	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 〇一人一台端末活用に向けた研修会を行う。 〇生徒支援に関する研修会を行う。
	読書習慣の定着	朝読書の時間を通して、落ち着いた気持ちで学校生活に臨ませ、知識と経験の深淵を図る。	B				

令和3年度 学校自己評価

(計画段階・実施段階)

福岡県立苅田工業高等学校長 印

学校運営方針		学校運営方針(4月)		評価(3月)
学校運営方針		「チーム苅工」として教育活動を展開し、志と自立心・思いやりの心溢れ、グローバルな感覚をもって地域産業を支えるモノづくりのスペシャリストを育成する。		A
昨年の成果と課題		年度重点目標		
昨年の成果として、苅田町イルミネーション事業に代表される地域との連携に加え、ものづくりを通して培われた技術・技能を発揮し、九州大会において優勝したマイコンカーラリーや、レスリング部・写真部の全国大会出場など、生徒主体の教育活動が十分に展開できるようになった。 今年は、「チーム苅工」としての教育活動をさらに発展・充実させ、確かな学力を育成するとともに、規範意識や危機管理意識の向上による安全で安心な学校づくり、5Sの徹底、行事を通して育む豊かな心と思いやりの精神など、工業人としての資質の向上とコミュニケーション能力の育成を図る。また、「社会に開かれた教育課程」の視点に立った地域の人的・物的資源の活用など、社会教育との連携を深めることでもたらされる実体験を重視したキャリア教育の推進を行う。さらに、ものづくりや部活動、地域行事への積極的な参加によって地域との連携をより緊密なものとし、学校創立60周年に向け、地域に開かれた魅力ある学校づくりと本校のブランド化を図る。		一人一人の人權が尊重される安全・安心な学校づくりの推進と思いやりの心の醸成	○危機管理マニュアルの改善を図り、危機管理意識の向上と対応能力を高める。 ○悩みやいじめの早期発見・早期対応による安心な学校環境づくりを推進する。 ○人權・同和教育、薬物乱用防止教育および命の教育を推進する。 ○豊かな心の涵養を目指した学校行事等の充実を図る。	
		「鍛ほめ福岡メソッド」を取り入れた主体的・対話的で深い学びの推進	○好奇心と創造力を喚起するICT等を活用した学習活動の推進を図る。 ○目標に準拠した観点別評価の定着を図る。 ○「ものづくり」への興味関心を育てる工業教育を推進する。 ○朝読書と運動した授業規律の確立を図る。	
		自立自立・規範意識の向上・5S(整理・整頓・清潔・清掃・躰)の徹底	○挨拶「服装」「時間厳守」等、基本的な生活習慣の確立を図る。 ○部活動、生徒会活動等の活性化による自主・自立、母校愛と共同の精神の涵養を図る。 ○5S徹底による工業人としての資質の向上とコミュニケーション能力の育成を図る。	
		キャリア教育の推進とグローバルな感覚をもった地域に根ざした人材の育成	○資格取得推進と進路マップによる進路意識の醸成を図る。 ○インターンシップや「産業人材育成事業」を活用した体験教育の推進を図る。 ○生徒自身の特性を生かせる進路希望の実現を図る。 ○グローバルな感覚を育成するための教育活動を展開する。	
地域に開かれた魅力ある学校づくりとブランド化	○「ものづくり」を通じた地域貢献事業の推進と創造力の育成を図る。 ○地域・中学生・保護者への学校情報の積極的で効果的な発信を行う。 ○地域のボランティア活動への積極的参加を推進する。 ○地域連携を活かしたブランド化の構築を推進する。			

部所名	課名	具体的目標	具体的方策	評価(3月)			次年度の主な課題
学年	1学年	工業高校生としての意識と自覚を持たせる	5Sの徹底や学習環境の整備・安全教育等を通して、ルールやマナーを守る態度を育成する。	A	A	A	○入学時の緊張感を維持し、気を引き締め、希望進路実現に取り組む。 ○インターンシップに向けて意義や目的を周知し、実りある学校行事となるようにする。 ○インターンシップ、修学旅行では成長を感じる点が見受けられた。この期間にできていたことを学校生活においても継続していけるように指導する。 ○企業調査等の作業をする時間がとれなかったので、3年次早々には実施していく。
			進路実現を見据え、学校行事や部活動等に積極的に取り組ませる。	A			
		基礎学力の定着と基本的な生活習慣の確立	遅刻・欠席・早退指導や検温入力等を徹底し、体調の自己管理ができるよう指導する。	B			
			課題の提出・授業規律の徹底を通して自発的に学ぶことができる環境を整える。	A			
	自発的によりよい人間関係・集団作りをさせる	面談や情報交換を密に行い、常に生徒の情報を共有する。	A	A			
		講話や集団での行動を通して自身と他者・社会とのバランスを考えさせる。	A				
	2学年	主体的に行動する態度を身につけさせる	朝の読書や集会など、教員不在中でも主体的に行動できる集団をつくる。	A	A		
			修学旅行などの学年行事や学校行事を通じて、共助の精神を身につけさせる。	A			
		進路に対する意識づけと基礎学力を向上させる	LHRや朝読の時間等を利用して、主要教科の問題を解かせ基礎学力を向上させる。	B	A		
			工場見学や進路学習、インターンシップ等を通じて、具体的な進路目標を設定させる。	A			
	3学年	生徒全員の希望進路実現	生徒と保護者の希望を把握し、キャリア教育部と連携して全生徒が希望する進路実現を目指す。	A	A		
			最新の進路に関する情報を提供し、生徒自ら希望する進路を選択できるように指導する。	A			
社会人として生きる力の育成		挨拶や敬語など、社会人として必要な社会人マナーを身につけさせる。	A	A			
		3年生として自分の立場を理解し、自ら考え行動できるように指導する。	B				
工業科	機械科	ものづくりの技術向上と資格取得の奨励、安全教育の徹底	危険予知の重要性を指導しながら5S(整理・整頓・清潔・清掃・躰)の徹底を図り、実習中における事故発生ゼロを目指す。	A	A	○新たな資格取得(機械保全)において多数の生徒が合格した。次年度も科として推奨している各種の資格取得指導に取り組んでいく。 ○工場内における5S(整理・整頓・清潔・清掃・躰)の徹底を図るとともに、機械及び設備の保全は積極的に取り組んでいく。 ○生徒の進路実現に向け、科職員一丸となり支援に取り組む。 ○教員相互の研修を密にし、指導力の向上を図る。	
			各種ものづくりに関する競技大会に参加することで、より高いレベルの技術・技能を身につけさせる。	A			
		地域や産業界に密着した学科を目指す	産業界に必要とされるようなグローバルな感覚を持った中堅技術者の育成を目指す。	A			
			ものづくり教室や出前授業などを積極的に行い、地域に開かれた科を目指す。	B			
	電気科	資格取得による専門知識の向上と実践的な技術を習得したグローバルに活躍できる中堅電気技術者の育成を目指す	卒業までに全員が第2種電気工事士の取得を目指して、学習活動を展開していき、さらに上級の資格(2級電気工事施工管理技士・電験三種)にも積極的に挑戦させる。	A	A		
			産業界の要請に応えられるような実践的な技術を身に付けた電気技術者の育成を目指し、ものづくりなどの技能体験を通して技術・技能を習得させ、創造力豊かな人材を育てる。	A			
		安全教育の徹底と地域との連携を深める活動の推進	5Sを徹底し、安全管理の意識と必要性を伝え、実習の中で実践できるように指導する。また、高大連携やものづくり技術の伝承を行い、職員間で、実践力を養う。	B			
			地域に密着した活動(エコデンレース・イルミネーション等)を推進し、連携を深める。また、出前授業などを通して中学生に電気科の魅力を発信する。	A			
	情報技術科	基礎的な技術・技能の向上及び進路実現できる資質向上	DD3種、ITパスポートなどの情報技術系の資格取得に積極的に取り組ませることにより、進路意識の高揚と自己実現を目指す。	A	A		
			グローバルに活躍できる技術者を育てるために、基礎的な学力、技術・技能の向上を図る。	A			
地域に根付いた情報及び電気・電子系技術者の育成		産業人材育成事業等を通じて「ものづくり」の実践的な技術を高めるとともに、地域貢献に取り組む。	B				
		産業界が求める各種の基礎技術・技能を、ものづくりコンテストや各種大会に挑戦することで、実践的に習得させる。	A				